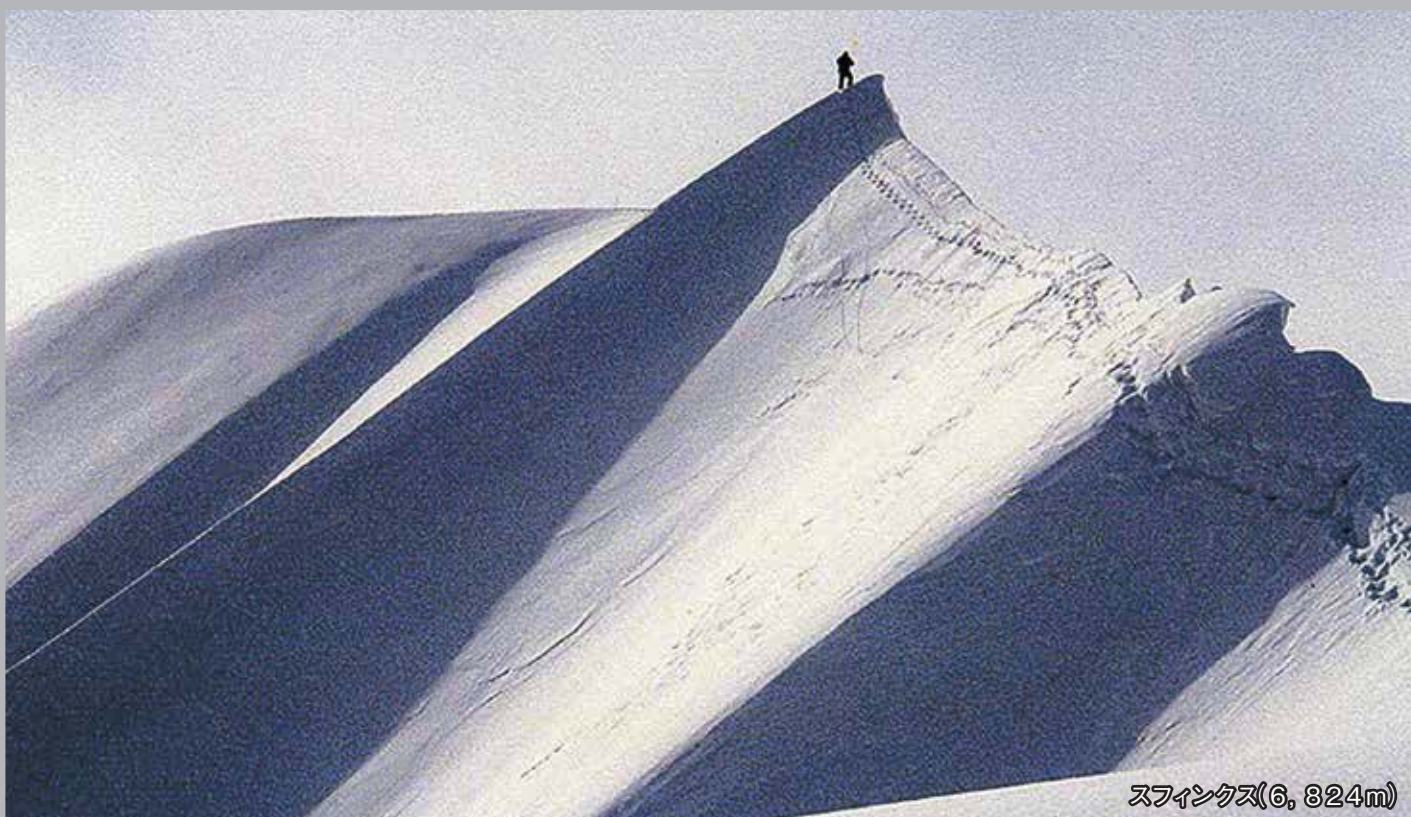


# 登山月報



スフィンクス(6,824m)



**8月11日** みんなで山を考えよう!  
 祝「山の日」  
 全国「山の日」協議会  
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.593

第57回全日本登山大会京都大会「おこしやす京のやま」を終えて…	2
第1回コンバインドジャパンカップ盛岡2018	3
第117回 Mountain World	4
<b>新連載</b> 『日山協と私』	5
平成30年度 全国遭難対策委員長会議・研修会報告	6
平成30年度 国際委員総会 兼 第57回 海外登山技術研究会報告	7
2018 I S M F 総会 報告	8
平成29年度事業報告	9
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12



# 第57回全日本登山大会京都大会「おこしやす京のやま」を終えて

6月16日から18日まで行われた第57回全日本登山大会京都大会「おこしやす京のやま」は、梅雨の晴れ間に恵まれ、講演やトーク、そして人気絶好調の「京都一周トレイル」のトレッキングを十分楽しんで頂けたと思います。全国から参加頂いた皆さんをはじめ、この大会を盛り上げて頂きました大勢の皆さんに、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

さて、この大会を成功させるために京都府山岳連盟では過去3回の大会に役員を派遣し、内容について検討を重ねて参りました。

その結果、全日本登山大会が近年、主管山岳連盟の絶大なご努力にもかかわらず、日本登山界にこの大会を知る人がほとんどなく、まして7~800万人とも言われる登山、クライミング等愛好者に何の刺激も影響も与えることのない日山協仲間内だけの催しとなっていることに気づきました。おまけに主管連盟は、費用の持ち出しまでやっていると聞き、このままでは大会の意味がないと危機感を抱きました。

そこで本山岳連盟では、「何のために、誰のために、何をやる」のかを議論し、次の結論を得ることができました。

何のために＝「せっかく大きな予算を付けて、京都で開催するのであれば、この機会に京都府山岳連盟の活動や理念を京都府民にアピールする。」

誰のために＝「100名以上の連盟員の協力を得るなら、連盟員と加盟山岳会のためにやる。そして、登山やクライミングに興味を持つ京都府民のために行う。」

何をやるか＝「登山やクライミングに興味がなくとも、老若男女、また家族連れなどが軽い動機で参加できるような催しにする。」

プラス＝「事業は、日山協からの委託費用のみで実



シンポジウム

施する。連盟からの持ち出しはしない。」ということ、2年前から準備に取りかかりました。

その中でネックとなったのが観光都市「京都」の特別事情、「まとまった宿泊所の手配ができない。おまけに宿泊費が尋常ではない。」でした。このことで参加の皆さんには大変なご迷惑をおかけしたと思いますが、事情をお酌み取り頂きたいと思います。

そして迎えた大会初日の講演会、シンポジウムには、会場を埋め尽くす約850名の方に参加頂き、17日は、770名余りの方に京都トレイルのトレッキングを楽しんで頂きました。

以上が、第57回全日本登山大会京都大会の概要ですが、この取り組み方に対して異論等もあるかと思いますが、しかし私たちは、少なからず全日本登山大会に一石を投じたと考えております。

それは、ツアー登山やガイド登山全盛の近年、全国47都道府県の山岳（スポーツクライミング）連盟、協会が元気になり、都道府県を代表する登山組織にならなくては、いずれ日本を代表する登山組織であるはずの日山協は、全国の登山、クライミング、トレッキング等の愛好者から見向きもされなくなる、ということ肝に銘じておくべきであると考えからです。その点、第57回全日本登山大会京都大会は、京都府山岳連盟にとって大変な事業（スタッフだけでも、2日間で高校生30名を含む200名近くが従事）でしたが、良い機会を与えてもらったと思っております。

あとになりましたが、ご協力を頂きました関係各機関、開催について惜しみないご指導ご支援等を頂きました日山協役員、各都道府県山岳（スポーツクライミング）連盟、協会の皆さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。（文責：湯浅誠二）



京都一周トレイル

# 第1回コンバインドジャパンカップ盛岡2018



期日 2018年6月23日(土)～24日(日)  
 会場 岩手県営運動公園(リード・スピード)、  
 岩手県勤労身体障がい者体育館(ボルダリング)

スポーツクライミングのオリンピック種目となるコンバインド(複合)を日本で初めての公式大会として、第1回コンバインドジャパンカップを盛岡で開催。(以下、CJC)

## 【女子】

予選1位通過の伊藤が決勝のスピードにおいても10秒58のタイムで1位通過。しかし次のボルダリングから野口の追い上げが始まった。野口は4課題すべてを完登。そして、リードでは疲労も重なり各選手のパフォーマンスが落ちている中、谷井が高度39+でトップとなる。野口は高度37+で2位、伊藤は高度36+3位となりリード一手の差で野口の総合優勝が決まる。

順位	名前	予選				決勝				
		S	B	L	Pt.	順位	S	B	L	Pt.
1	野口 啓代	4	1	2	8	2	3	1	2	6
2	伊藤ふたば	1	2	3	6	1	1	3	3	9
3	谷井 菜月	7	4	1	28	4	4	4	1	16
4	野中 生萌	2	3	4	24	3	2	2	5	20
5	倉 菜々子	3	6	6	108	5	6	5	4	120
6	栗田 湖有	6	5	7	210	6	5	6	6	180

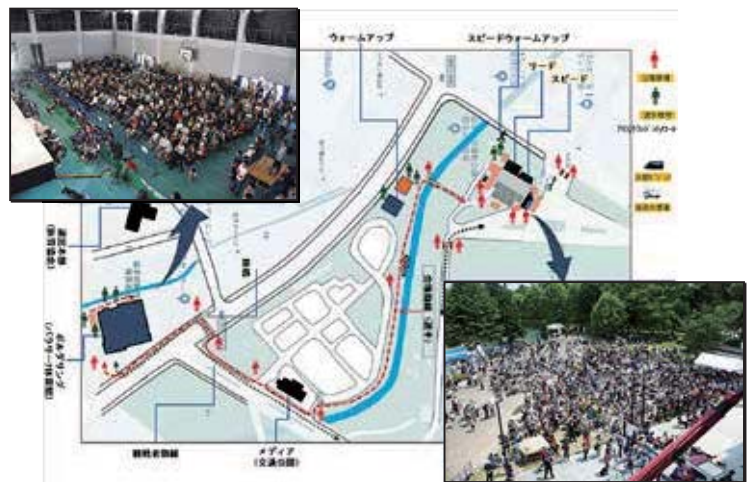
## 【男子】

男子は、榎崎兄弟対決となり兄の榎崎智亜が優勝を勝ち取った。スピードは、榎崎智亜が1位、緒方2位、榎崎明智選手3位となった。兄智亜はタイム6秒87を打ち出し日本記録を更新。素晴らしいパフォーマンスに会場が盛り上がった。次の競技ボルダリング決勝では、課題がやや易しめか3完登が4人。ゾーンの数で順位が決まる厳しい戦いとなった。その中で弟の明智がリーチを活かした登りで4完登し首位に浮上。そして、最後のリードでは、高度35+で並ぶなか兄榎崎智亜がトップに迫る高度37+で1位、総合優勝を決める。

順位	名前	予選				決勝				
		S	B	L	Pt.	順位	S	B	L	Pt.
1	榎崎 智亜	1	2	21	42	1	1	4	1	4
2	榎崎 明智	4	13	1	52	2	3	1	2	6
3	緒方 良行	2	10	7	140	4	2	2	3	12
4	原田 海	5	5	9	225	6	4	3	6	72
5	杉本 怜	13	3	5	195	5	6	5	4	120
6	高田 知堯	24	1	3	72	3	5	6	5	150

## 【運営】

コンバインドは選手、スタッフともに初めての体験であった。準備期間も短かったため、運営マニュアルの整備が間に合わないためBWCのスタッフを投入。リード・スピード会場とボルダリング会場が離れてお



り、思った以上に時間に追われる運営となった。選手においても暑さも加わり、体力、意識のコントロールが大変だったと感じる。

また、地元・伊藤ふたば選手の人気は絶大で多くの観客が来場。女子ボルダリング決勝では、入場制限を行うほどであった。また、メディアも6月23日、84名(36社)6月24日、96名(41社)が来場。コンバインドは面白いという意見が多かった。

(実行委員長 村岡正己)



# 第117回 Mountain World

## パキスタン 2018速報

### 池田常道

日本列島が、西日本を中心に未曾有の豪雨災害に見舞われる一方、カリフォルニアやギリシャからは熱波の便り。パキスタンでは6月の降雪が登山隊の足取りを鈍らせたが、7月16日にナンガ・パルバット(8126m)とブロード・ピークで今季最初の8000m峰登頂が記録された。ドイツのルイス・シュティツィンガーはウルドクⅡ峰(7082m)の初登頂を狙っていたが、雪崩が頻発したため断念。ガッシャブルムⅠ峰(8080m)に目標を変えて7月18日、自身8座目となる8000m峰登頂に成功した。

7月21、22の両日にはK2(8611m)で合計63名が南東稜から頂上に立ち、これまでのシーズン最高記録(初登頂50周年の2004年に記録された51名)を更新してしまった。小谷部明隊長ら10名の北日本隊も22日、6名と高所ポーター2名が登頂、しかし、渡辺康二郎隊員が下山中8300m付近で滑落死した。また、カナダ・ケベック州隊のセルジュ・デスルオー隊長がハウスのチムニー下部で転落死した。

22日にはポーランドのアンジェイ・バルギエルが、史上初めて頂上からのスキー滑降に成功した。その滑降ラインは写真説明に記したとおりである。バルギエルの弟バルテクは、ドローンで兄のスキー滑降を撮影したが、7月9日にブロード・ピーク(8051m)で単独攻撃をかけたまま戻らなかったリック・アレン(英)の捜索を依頼された。ドローンは滑落して動けなくなっていたアレンの居場所を8500mの上空から特定、所属するサミットクライム公募隊から7人が駆けつけてアレンを救助した。

7月6日～7日、オーストリアのハンスイェルク・アウアーがルプガール・サール西峰(7181m)西壁を単独で初登攀したことは前号で報じたとおりだが、遭難死は、K2以外すでに3例報告されている。

ガッシャブルムⅣ峰(7925m)ではダニエーレ・ベルナスコーニら4人のイタリア陸軍隊4人のうちマウリツィオ・ジョルダーノ(32)が落氷に打たれて亡くなった。一行は、58年にボナッティとマウリがたどった初登頂ルート(北東稜)の第2登を目指していた。ガッシャブルムⅣ峰にはこのほかポーランドのアダ

ム・ビエレッキとヤーツェク・チェフがドイツのフェーリクス・ベルク東壁を狙い、ダーフィット・ゲトラー(独)とエルヴェ・バルマッス(イタリア)が南西壁から登頂を目指している。

フンザの難峰ウルタール・サール(7388m)では、ブルース・ノーマンド隊長ら3人の英国＝ドイツ隊が6月29日、5800mのリッジで雪崩に襲われ、クリスチャン・フーバー(独)が犠牲となった。フーバーの遺体は、無事だった隊長とティモシー・ミラーと共に7月1日に陸軍ヘリで搬出された。

1978年にジェフ・ロウらの米国隊が試みて頂上直下まで迫って以来、ラトックⅠ峰北稜への挑戦は24回を数えるが、いまだ当時の到達高度を超えたチームはない。

ロシアのアレクサンドル・ゲーコフとセルゲイ・グラズノフは5日分の物資を携えただけで標高差2400mに及ぶリッジを攻撃した。取付いてから2週間たった7月24日、二人のGPSシグナルは6975m地点にいたことを示したが、翌25日、ゲーコフはグラズノフが懸垂下降に失敗して転落するところを目撃。SOSと共になんの装備もなく壁に取り残されていると救助を求めてきた(グラズノフがロープもろとも転落したものと思われる)。陸軍ヘリのパイロットは、北稜取付き近くに落ちているグラズノフを視認したが、ゲーコフの救助作業は折からの降雨と霧で視界が奪われて居場所が特定できず、27日現在まだ実施されていない。



バルギエルのK2滑降ルート。南東稜④の肩から南南東リブ③に入り、79年メスナー・トラバースを経て86年ククチカが登った南壁下部側稜でフィニッシュした



新連載 ～創立60周年に向けて～(3)

# 『日山協と私』

大分県山岳連盟 首藤 宏史

創立60周年おめでとうございます。

発足当時にくらべ、社会的責任の増大とともに、日山協の仕事量も増え、役員の皆様の頑張りに敬意を表します。

私は、1977(昭和52)年、大分県山岳連盟理事長を務めるようになり、日本山岳協会評議員となりましたことが、日山協とのかかわりのはじまりでした。以降、評議員7年、理事2年、1986(昭和61)年より参与となり、現在に至っています。

まず、思い出として心に残っていることは、1984(昭和59)年、財政問題で鎌田会長代行(翌年から会長)が大変苦勞され、少しでも財政の足しになれば、と日山協役員や各山岳連盟(協会)役員5名程度が1人5万円を抛出し、何年間かの利息で補ったり、1980(昭和55)年から発足した参与制度を、1985(昭和60)年からさらに増員し、協力するようになったことです。また、日山協山岳遭難共済制度の推進や役員頑張りににより少しずつ良くなりましたが、坂口会長(当時)、財務担当の田中理事(後に会長)のとき、さらに山岳保険制度を充実させるなどの努力をされて財政が好転し、現在の礎が築かれたのではないかと考えています。

次に、第21回全日本登山体育大会を、1981(昭和56)年、ミヤマキリシマの咲く6月4日(木)から、自然保護をテーマにして開催したことです。3泊4日の日程でしたが、梅雨の時期にしては珍しく晴天で、長者原と坊がつるで幕営、久住高原荘で宿泊の4日間を満喫して頂いたと思っています。大会会長は今井田氏、副会長鎌田氏と大分県山岳連盟佐藤会長、大会委員長田中氏でしたが、会長は参加されませんでした。



第21回 全日本登山大会 (くじろ山系) 5.30.6.4-7



第44回全日本登山体育大会(石鎚山)

国際山岳年の2002(平成14)年8月に第41回大会をくじゅう山系と祖母山で開催しました。このときは残念ながら雨模様の中の山行となりましたが、予定の行動はできました。宿はホテル・旅館でしたが、2日目の交換会は、久重森林公園スキー場の食堂で飲食を充分に楽しんで頂き、参加者全員が肩を組み、坊がつる讃歌を合唱したことが思い出されます。この時の会長は田中会長、副会長は山本氏、高室、城の各氏と大分県岳連会長・日山協最高顧問の衛藤氏、大会委員長は八木原氏(現会長)でした。アフターツアーは鶴見岳や阿蘇山を廻り、湯布院温泉の今昔庵で親交を深めたのも良い思い出です。

全日本登山大会(54回の宮城県までは全日本登山体育大会)には、今年の京都大会まで、28回参加しました。各県の山に登らせていただくことも楽しみですが、全国の岳友の方々にお会いするのも楽しみです。体の続く限り参加したいと思っています。

さらに、1998(平成10)年8月28日～9月6日の10日間、中国登山協会招待の新疆地区友好訪問団の一員に加えていただき、主としてボゴダ峰やトモルティ峰のBC近くの偵察とウルムチ、トルファン、ハミを訪問しました。団長は、坂口日山協会長、副団長に清水、山本副会長、秘書長に長野県山岳協会顧問の田村氏と総勢10名でした。天地(海拔約2,000m)の海南という湖畔ではパオに2泊し、楽しい夜を過ごしました。トルファンからハミまでは道路が良くなく、砂漠の中をマイクロバスで走るのが大変でした。カレーズ、交河古城、火焰山、ベゼクリク千仏洞等も見学できました。9月5日の中国登山協会への答礼宴では、1980年から大分県岳連がお世話になった、史占春氏、許競氏にもお会いでき嬉しく思いました。

東京オリンピックでは、スポーツクライミングも実施されますので、益々忙しくなると思いますが、頑張っしてほしいと思います。



## 平成30年度 全国遭難対策委員長会議・研修会報告

平成30年6月23日(土)～24日(日)の2日間にわたり、東京都晴海の海員会館に於いて平成30年度全国遭難対策委員長会議・研修会兼日山協遭対委員会総会が全国より45名の参加者を集め盛大に開催された。内容は以下のとおりです。

○23日(土)：「ココヘリの現状と搜索実績」、「夏山リーダーについて」説明と討議、「雪崩事故後の高体連登山活動と今後について」、研究討議「高体連と岳連との今後の繋がり方」、討議内容発表

○24日(日)：平成29年度報告、30年度計画、会計報告ほか、UIAA報告、第15回山岳事故調査報告、各委員長からの事故事例報告ほか

はじめに、日山協亀山副会長の挨拶で開会し、上記の研修会ならびに会議が行われた。

どれも大変興味深いもので、「ココヘリ」については、登山者が携帯することにより万が一の遭難事故に際しても搜索に費やす時間を大幅に削減できることが説明された。生存者救出といった実績が増えてくれば認知度や普及率も今以上にアップしてくるのではと思われる。

しかしながら、「ココヘリ」はあくまでも事故後の対処になる。遭対委員会では【減遭難】に向けた有効な取り組みを実践していくことを念頭に、今年度より山岳会等の団体に所属しない一般登山者に「夏山リーダー」という資格を取得してもらうことにより、安全登山への意識をより一層高められる仕組み作りに向けて、指導委員会と協力し活動展開している。資格を取った「夏山リーダー」一人ひとりが安全登山を仲間たちに伝えることにより【減遭難】に向けたまた新たな一歩を踏み出すことになると信じます。

昨年3月に発生した那須雪崩事故は我々に大きな衝撃を与えた。二度とあってはならない悲しい出来事を教訓とするため、高体連とのかかわり方が討議された。各岳連において、その関係性は様々で、密に関わりを持ちながら活動している岳連もあれば、ほとんど関りが無い岳連もあるようです。現状を踏まえ、今後は前述の「夏山リーダー」が高体連との橋渡し役として貢献できるものと期待される。

参加者たちが情報交換と互いの親睦を深め合って締めくくられた1日目に続き、2日目は遭対委員長会議が開催された。

今年度よりスタートした常任委員と専門委員による

新体制の説明がされ、昨年度活動報告・今年度活動計画、昨年度会計報告・今年度予算等が行われた。

「夏山リーダー養成プログラム」については、国際基準であるUIAAの承認を取得するべく既に動き出しており、その経過報告がされた。日本の登山における教育制度が国際的にも認められたものになれば、「夏山リーダー」の認知度や信頼度も格段に違ったものになるでしょう。

毎年恒例の「山岳事故調査報告」においては、事故事例を収集する困難さを伴うなか、長年の地道な努力の積み重ねで、実に興味深い現象を我々に提示してくれている。今回は新たに標高を切り口にデータを分析するなど、様々な捉え方で分析し続けることで【減遭難】に向けたヒントを導き出してくれることが期待される。

「現在、日山協の遭対委員会は常任委員・専門委員を併せても22名しか居らず、日本全国の遭難事故を減少させるために限られた人数でどんなに努力をしても限界があります。まずは各岳連・協会の遭対委員長の皆さんに頑張っていていただきたい。要請があれば協力も惜しみません。互いに手を取り合って、【減遭難】に向けて邁進してまいりましょう！」との町田遭難対策委員長の挨拶をもって、2日間にわたる研修会ならびに委員長会議が閉会しました。

(遭難対策委員会常任委員 榎 昭善 [東京都])



ココヘリについて説明する久我代表

### 安全登山指導者研修会(西部地区)開催

期日	11月17日(土)～19日(月)
会場	沖縄県 名護市名護岳周辺
参加費	2万円
申込締め切り	10月19日(金)

## 平成30年度 国際委員総会 兼 第57回 海外登山技術研究会報告

6月23日(土)、24日(日)の両日にかけて、宇都宮市にある青年会館コンセーレを会場に、表記研究会を開催した。この研究会は広く全国の方々に参加していただきたい趣旨から隔年で地方開催をしており、今年は栃木県山岳・スポーツクライミング連盟のご協力を得て、宇都宮市で行われた。総会への参加岳連/協会は18団体、また研究会は1日目の「海外登山報告2017」に66名、2日目の特集「スキーで広がる登山の世界」に67名の参加があり、70名定員の会場がほぼ埋まる盛況な研究会となりました。数年前より20代、30代の若い世代の参加を、参加費を割引くことで促していますが、その対象世代も延べ16人が参加してくれました。

初日は研究会の前に、各岳連/協会の担当者のみで国際委員総会が行われた。澤田国際委員長より前年度の活動報告と会計報告、30年度の活動指針の説明があり、その後、各岳連/協会から近況の報告をしていただいた。

15時から是一般の参加者を迎えて海外登山技術研究会を開催。まず主管の栃木県岳連の石澤会長より歓迎のご挨拶をいただき、そのあと海外登山奨励金交付隊を含む4つの登山隊から、登山報告をしていただいた。

初めは上田幸雄氏によるインドの無名岩峰初登頂報告。当初目指していたピーク(ダラムスラ)の条件が悪すぎたことから、近傍に見つけた5,620mの未踏の岩峰に目標を変更。スケールはやや小さくなったが、手応えのあるクライミングを楽しみ、最後は真の頂上までこだわって登った様子が、写真と映像で報告された。

2つ目はシスパーレ北東壁初登攀報告。隊長の平出和也氏が仕事で参加できないことから、今回の報告用に作成したビデオによる報告でした。今回が4回目となるシスパーレにかかる氏の想いと、険しいルートを必死のクライミングで拓いていく様子が、美しい映像と共に表現されていた。

今回の各隊の報告で特徴に感じたのは、写真だけではなく映像が多く使われていた点です。ビデオカメラも小型軽量化し、また編集作業も個人レベルでできるようになった昨今、多くの登山隊が映像記録を残すようになっています。映像は言葉や写真とは比較にならない情報量があり、現場のリアルな緊張感もよく伝わってきます。これからの傾向であろうと思われる。

次に東京農大隊の西出広平氏によるマナスル東稜報告。自分たちの力で登りたいという意図から一般ルー



トではなく東稜を目指した平均年齢26歳の若い遠征隊。登頂はできたものの、しかし直後に一隊員を失った。残念な結果であったが、今後も純粋に山に挑む気持ちを持ち続けて欲しいと感じた報告であった。

最後は長門敬明氏によるK7西峰南西稜初登報告。まず3日間のロッククライミングでバダルピークに上がり、そこから雪と氷のリッジをK7西峰まで登った記録。氏のこれまでの登山経歴を紹介しながらの報告であった。

その後は海外登山に関する最新情報の紹介が鳥国際委員よりあり、初日の研究会は閉会。宿泊者は食事のあと、栃木の方々の用意してくれた懇親会の席で、それぞれに親睦を深めた。

2日目は「スキーで広がる登山の世界」というテーマで、スキー登山の報告を二つしていただいた。

1つ目は佐々木大輔氏によるもので、ほとんど滑られたことのないデナリの南西壁のスキー滑降を、カシンリッジの登攀と組み合わせたいわゆるクライム&ライドの記録。

また2つ目の報告は藤川健氏によるもので、5月の北アルプスにて室堂から上高地までをスキーを使って1日で縦走した記録。どちらもよく整理された発表で、一般愛好家の領域を超えた超人的な記録に、参加者も目を瞠っていた。

そして講師お2人を迎えた座談会では、スキーの魅力は何かという質問に、滑りが楽しい、速い、行動が自由などの他に、登りが楽しいとか斜面トラバースが有効などの目新しい意見も出て白熱した。また安全管理についての話では、滑落に対しては、転倒して滑落している状態から立ち上がる練習をしたとか、危険な場所は勢いをつけて滑り抜ければ、もし転倒しても惰性で危険個所の向こうまで行ける、などの驚きの話も出てきた。お2人の話に興味は尽きず、時間いっぱいまで座談会を続けて、研究会は終了した。



一言にスキーと言ってもいろいろな遊び方があり、突き詰めるとそれぞれの境地や感覚があって、それは新しい挑戦(価値観)を創造し、山の楽しみ方を豊かにするものと確信した。日本ではスキーと登山は別の遊びと捉えがちだが、山を舞台に表現される行為に差異はなく、もっと多くの方に積極的に山でのスキーを楽しんでもらえたらと思った。

最後に、研究会の宣伝や会場の運営、参加者への対応など、多岐にわたり栃木県岳連の皆様には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

(国際委員会 澤田 実)

## 2018 ISMF総会 報告

本年度のISMF総会は6月14日(木)～16(土)にポーランドの山岳リゾート、ザコパネにて開催された。

2022年の北京オリンピックの種目認定を目指してきたが、叶わず、次のオリンピックを確実に目指して行きたいという会長の挨拶から始まり、基本的に最後まで内容的にはオリンピックを意識したものであったと思う。

近い目標として、2020年のユースオリンピックに向けては各国から確実に参加者が欲しいということ、それらはIOCからも視察が来るため、この大会と世界選手権は成功させたいとのことであった。

2026年に向けては、スウェーデン(ストックホルム)、オーストリア(グラーツ)、トルコ(エルズリム)、日本(札幌)、に対し、オリンピックコミティーと良い関係が取れているかどうか?という質問がなされた。

スイス(シオン)は2026年の誘致は降りたようである。スウェーデンはよくわからなかったが、オーストリア、トルコは概ね良好。そして日本の場合、札幌の誘致はまだ続いており、オリンピック委員会との関係も、現在は特にクライミング部門において、2020年の東京オリンピックに向けてはメダルを獲得できる候補選手も抱えており、良好な関係ができていると伝えた。

また、特にアジア地域とアメリカでのワールドカップ開催はもとより、特にアジアにおいては重要視しており、今回時間外でのアジアミーティングも2回開催された。アジアカップは順に中国12月、韓国3月、イラン4月(それぞれ6月現在)に予定されており、日本は現段階で準備がないと伝えている。

W-CUPに関しては、中国は2月に決まったようである。

9月中には全てのアジア日程が決定される。また、アジアで統一した内容のWEBサイトも必要であるとのこ

とで、特にアジアカップやワールドカップの内容がわかるように英語での表記をしてほしいということだった。アジア各国は英語表記のHPを作る必要があるとのことだった。(日本は現時点でアジアカップ及び、アジアカップの予定がない為、急ぐ必要はないかもしれないが、近く準備する必要があると思われる。)

これに関しては中国が英語表記にて8月中にHPを作成する予定である。

今回の総会をもってISMFには新たに5つのメンバーが加わった。デンマーク、アルメニア、アゼルバイジャン、ブラジル、アメリカ(US SMA)である。また、仮会員としてインド、ネパールも加わった。

改正点も幾つかあり、競技ルールの中では、18～19シーズンは推奨であるが19～20シーズンよりブレーキが必要になってくるという点。これらについては、今後メーカーからの情報も合わせて注目する必要がある。

その他、特に様々な意見が出されたのは規約改正に関する部分であった。

### 規約改正の主なポイント

#### 1. 役員会等の組織の改編

#### 2. 会長の再任回数の変更

【2期(4×2)→3期(4×3年)】

#### 3. 仮会員制度(Provisional Member)新設

#### 4. 会計年度(1月～12月→7月～6月へ)の変更

幾つかの国が2の会長の再任について反対した。これに関しては否決された。その他、議事については概ね承認され、会議は無事終了した。

初めての出席であったが、今まで出席されていた笹生氏への信用もあり、欠席のカナダからは委任票が日本に託された。多くの国の関係者からも日本には声をかけられることが多く、何かしら日本へ期待をされている事も感じ、今後に向け、大会の開催、選手の発掘及び育成にもさらに力を入れていけるよう皆で考えて行動したいと思う。(山岳スキー委員会 松澤幸靖)





# 平成29年度事業報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

## I 総括

平成29年度は法人名称を「公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会」としてスタートし、主な活動方針は以下の2本とした。

(1) 国民の祝日「山の日」が、登山振興の契機となるような全国的な視野に立って各種事業を積極的、効果的に実施する。

(2) 東京2020オリンピック大会に向けて組織体制を強化し、スポーツクライミングの普及振興、選手の強化育成、競技大会の充実、広報強化等を図り、メダル獲得に向け努力する。

まず、登山事業においては、祝日「山の日」記念事業は、38都道府県山岳連盟(協会)で実施された。特にスポーツ庁の鈴木大地長官が岩手山の山開きに参加されたことは大きな後押しとなった。

海外登山奨励事業は、応募隊が4～5隊と年々多くなっており、今年はパキスタンのシスパーレ(7,611m)北東壁初登攀など大きな成果も見られた。

医科学支援事業は、本年度から組織的に登山医科学委員会とスポーツクライミング医科学委員会に分けて支援することにした。

一方、スポーツクライミング事業においては、ワールドカップ、ワールドゲームズ、世界ユース選手権、アジア選手権、アジアユース選手権等の国際大会において、優勝、入賞を果たすなど好成績を残し、メディアの露出も多くなった。

国内大会では、参加希望者が多く、予選会を兼ねる公認大会の整備が急がれる。次年度は早々に公認大会を募集する意向である。

登録選手規程を改定して団体登録や所属名の選択ができるようにした。規程改定に合わせて登録方法も変更された。

競技施設の拡充については、スポーツクライミングを取り巻く環境の好転から各地の自治体で競技施設設置の機運が盛り上がり、スピードの専用施設も増えた。JOC認定競技別強化センター申請も2件の申請が認定され、1件申請中。

事務局体制としては、スポーツクライミング関係の業務は、増える一方であり、仕事のさらなる効率化が求められている。

ガバナンス委員会を設置して、諸規程・規則類を整備し、競技団体としてのガバナンス、インテグリティ、サステナビリティの再認識を図った。

## II 事業報告

(1) 青少年育成事業

ア) 高体連登山部関連

① 選手登録に関して3月31日現在で7731名登録。

② 第61回全国高等学校登山大会の開催 7/30(日)～8/3(日) 山形県・蔵王、月山、男子47校、女子45校、選手736名参加。優勝は男子：長崎北陽台高校、女子：盛岡第一高校

③ 第8回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大

会 12/23(土)～24(日) 埼玉県加須市市民体育館、女子83名、男子109名、192名参加(122校40都道府県)

イ) ジュニア登山教室

① 「みんな集まれ! ジュニア登山教室 in 立山2017」

8/1(木)～20(日)国立立山青少年自然の家、立山周辺  
参加者15名、役員5名

② 「みんな集まれ! なすかし雪遊び隊2018」 3/27(火)～29(木)国立那須甲子青少年自然の家、参加者18名

③ 「ジュニア普及情報交換会」

2/17(土)(2018年) 国立オリンピック記念青少年総合センター、参加者26名

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

- ・ワールドカップ、ワールドゲームズ、世界ユース選手権、アジア選手権、アジアユース選手権及び国内各競技大会の事前及び結果のプレスリリース。

- ・国際大会出発・帰国時に空港での取材対応。

- ・那須雪崩遭難事故に関わる取材対応。

イ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

- ・平成29年度実施各競技大会入賞者表彰

- ・平成29年度全日本登山大会功労者特別表彰及び開催地関係者への感謝状(団体)贈呈

- 特別表彰：佐藤健(北海道)、扇田守(青森)、荒木浩二(茨城)、中村江津子(群馬)、藤巻ひろみ(群馬)、前田充一(富山)、小林弘之(山口)、感謝状：北海道、札幌市

- ・第7回日本山岳グランプリ：古原和美氏(長野)

- ・文部科学大臣・スポーツ功労者表彰：榑崎智亜、野口啓代、野中生萌各選手

- ・平成29年度日本スポーツ賞表彰：是永敬一郎選手

- ・平成29年度生涯スポーツ功労者表彰：中村保氏

- ・上月財団スポーツ選手支援事業への推薦

- 谷井菜月、坂井亮暎の2選手を推薦(9/6認定式)

- ・平成29年度宮崎県文化賞：三澤澄男氏(宮崎)

- ・平成29年度日本体育協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦 目次俊雄(千葉)、瀧本健(東京)、前田善彦(奈良)を推薦。

- ・平成29年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦：明田通世(北海道)、関口薫(千葉)

- ・新春特別表彰

- 岳連推薦：鈴木主計(岩手)、船越重幸(山形)、阿部信一(新潟)、森下健七郎(埼玉)、水谷潔(三重)、木下喜代男(岐阜)、吉村忠明(奈良)、坂口仁治(山口)、大森武生(岡山)

- ・2017年国際大会で活躍したスポーツクライミング選手表彰：是永敬一郎、緒方良行、榑崎明智、谷井菜月の4選手

ウ) 平成29年度海外登山隊奨励金の公募と選考

前期は4隊の応募があり、厳正な審査の結果、以下の4隊に奨励金(各20万円)を交付。後期は応募無し。

① 「2017ダラムスラ峰西壁登山隊」

② 「テンギラギタウ西壁登山隊」

③ 「Giri-Giri Boys Patagonia Expedition 2018」

④ 「嘉子峰北西壁登山隊」

オ) 各種登山・山岳スポーツ大会等の後援

第4回アジア・太平洋登山医学会/第37回日本登山医学会合同 学術集会免稅措置及後援。その他、共催1件、後援名義18件承認

カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る：日本山岳文化学会創立15周年記念講演会・祝賀会(5/27)、斎藤一男さんお別れの会(7/29)

(3) 安全登山の啓発事業

ア) 平成29年度中高年安全登山指導者講習会(国立登山研修所共催)の実施

① 東部地区(静岡・竜爪山周辺) 9/22(金)～24(日) 38名参加

② 西部地区(山口・陶ヶ岳周辺) 10/7(土)～9(月) 46名参加

イ) 山岳レスキュー講習会

① 西部地区(国立登山研修所) 9/8(金)～10(日) 44名参加

② 東部地区(土合山の家) 1/26(金)～28(日) 34名参加

ウ) 第56回全日本登山大会の開催

7/6(木)～8(土)北海道・羊蹄山、ニセコ山系周辺 一般参加者255名、地元役員60名が参加

エ) 「山の日」制定記念「ふるさとの山を登ろう」事業：38都道府県山岳連盟(協会)で開催。

・第2回「山の日」記念全国大会 in 那須の開催協力、8/10(木)～11(金) 栃木県・那須町文化センター他、約900人出席

オ) 研修及び研究会

① 遭難対策常任委員研修会 6/10(土)～11(日) 神奈川県山岳スポーツセンター 参加者19名

② 平成29年度遭難対策研修会兼委員総会 6/24(土)～25(日) 神戸セミナーハウス 参加者48名

③ 平成29年度国際委員総会兼第56回海外登山技術研究会 7/22(土)～23(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター 67名参加

④ 「イェジ・ククチカの映画の夕べ」 10/11(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター 約100名参加

⑤ 海外登山懇談会 11/16(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター 37名参加

カ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

キ) 平成29年度全国山岳遭難対策協議会の共催 7/7(金) 国立オリンピック記念青少年総合センター 約250名参加

ク) 山岳保険加入者の事故調査

ケ) 遭難事故の調査研究(委託事業)及び科学的分析

コ) IMSAR研究助成支援及びAVASR協議会支援(新規)

サ) 高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議の協力

ス) 内閣府の噴火時等の避難計画の手引き作成委員会への協力

(4) 登山指導者育成事業

ア) 指導員研修会

① 氷雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会)

・4/29(土)～30(日)富士山、20名参加

・平成30年2/17(日)～18(日)大山、11名参加

② 平成29年度指導委員研修・委員総会

6/3(土)～4(日)東京海員会館 56名参加。

③ 登攀技術研修会(A級、B級主任検定員・上級指導員養成講習会)

10/28(土)～10/29(日) 聖ヶ岩ふるさとの森(福島)、30名参加

④ 夏山登山リーダー資格制度検討会

⑤ 指導・競技委合同研修会(6/29)

イ) 主任検定員養成講習会

・スポーツライミング主任検定員養成講習会：12/2都岳連事務所 7名参加、12/9 昭島市総合スポーツセンター 3名参加

ウ) 公認山岳スポーツ指導者の養成

① 上級指導員・指導員養成講習会の実施

・各岳連(協会)会長に委嘱し年間実施

山岳指導員：北海道1名、岩手1名、栃木22名、神奈川7名、長野1名、広島16名、香川4名の認定承認、山岳上級指導員：神奈川12名、香川1名、長崎1名の認定承認、SC上級指導員：山形1名、宮城7名の認定承認

エ) 国立登山研修所研修会の後援(通年)

(5) 競技会運営事業

ア) 競技会・研修会の開催

① 第20回日本ユース選手権リード競技千葉大会2017

4/15(土)～16(日) 印西市松山下公園総合体育館 男子110名、女子106名参加

② I F S C ボルダリングワールドカップ八王子大会2017

5/6(土)～5/7(日)エスフォルタアリーナ八王子 83名参加

③ ボルダリングユース日本選手権鳥取大会2017

5/20(土)～21(日)鳥取県倉吉体育文化会館、288名参加。

④ 第31回リード・ジャパンカップ(愛媛国体リハーサル大会) 6/10(土)～6/11(日) 愛媛・西条市 86名参加

⑤ 第20回J O C ジュニアオリンピックカップ

8/12(土)～14(日) 南砺市桜ヶ池CC 207名参加

⑥ 全国ルートセッター研修会：第1回8/15(火)～17(木) 南砺市桜ヶ池CC、12名参加。第2回：12/25(月)～27(水) 加須市民体育館

⑦ 第13回ボルダリング・ジャパンカップ一般参加選手予選会開催 12/9(土)～10(日) プレイマウンテン名古屋IC店 男子147名、女子44名参加

⑧ バラクライミング大会

1/28(日)明治大学和泉キャンパス 29名参加

⑨ 第13回ボルダリング・ジャパンカップ開催

2/3(土)～4(日) 東京・駒沢オリンピック公園総合運動場 男子96名、女子61名参加

⑩ リード日本選手権開催

3/3(土)～4(日) 埼玉県加須市民体育館、男子73名、女子46名参加

⑪ ユース日本選手権リード競技大会

3/24(土)～26(日) 印西市松山下公園総合体育館、男子145名、女子115名参加

⑫ 競技委員会ブロック研修会の開催：9ブロック434名参加

⑬ 公認大会・予選会実施の推進

イ) 国体山岳競技関連事業(愛媛県西条市)

① 4/15(土)～16(日) 第72回愛媛国体第1回基準会議

② 6/9(金)～11(日) 第72回愛媛国体第2回基準会議

③ 9/10(日) 組合せ抽選会 岸記念体育会館



- ④各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ⑤9/30(土)～10/3(火) 第72回愛媛国体山岳競技
- ⑥第72回愛媛国体以降の開催県への指導
  - ・第73回福井国体リハーサル大会の新規計画と指導
- ウ) 競技運営
  - ①競技委員総会の開催 4/2(日)
  - ②国体山岳競技への支援協力 ルートセッター派遣、ブロック別研修会講師派遣
- (6) 競技力向上事業
  - ア) 日本代表選手選考・派遣
    - ①代表(S、A、B) 選手の選考  
ボルダリング：男子12名、女子9名、リード：男子13名、女子9名。
  - イ) 代表選手の派遣
    - ①IFSCクライミングWC  
4月～11月 世界各地に派遣。
    - ②IFSC世界ユースクライミング選手権  
8/30(水)～9月10日(日) インスブルック
    - ③ワールドゲームズ  
7/20(木)～30(日) ポーランド・ヴロツワフ
    - ④アジア選手権 9/18(月)～21日(木) テヘラン
    - ⑤アジアユース選手権 7/9(日) シンガポール
    - ⑥チャイナ・オープン 11/17(金)～10日(火) 広州(中国)
- ウ) 代表選手強化合宿
  - ・強化合宿：10回実施、延べ232名参加
  - ・スピード記録会：東京・大阪で20回実施、延べ355名参加
- (7) 国際交流事業
  - ア) 派遣他
    - ①BMC International Climbers Meetへの派遣(夏)  
5/13(土)～20(土) 英国Comwall 倉上慶太、増本さやかを派遣
    - ②UAAA合同遠征として久松靖、岩田直也をキルギスに派遣
    - ③ISMF(国際山岳スキー連盟) アジア選手権派遣支援  
アジア選手権：2/27(火)～3/2(金)、北京郊外  
韓国大会：3/17(土)～18(日)
    - ④第11回山岳スキー競技日本選手権大会(③の選考大会)  
4/1(土)～2(日) 小谷村柵池高原、参加者61名、
- (8) 医・科学支援事業
  - ア) 日体協公認スポーツドクター養成支援
  - イ) UIAA MedCom
    - ①UIAA MedCom Meetingへの出席 3/27～29にカトマンズにおいて開催、増山委員長が出席。
- ウ) 日山協が支援している医科学的諸事業
  - ①国際認定山岳医研修会
  - ②日本登山医学会認定山岳医研修会
  - ③NPO富士山測候所を活用する会
  - ④JSM登山者検診ネットワーク
  - ⑤日本登山医学会ファーストエイド講習会
  - ⑥第4回アジア・太平洋登山医学会/第37回日本登山医学会合同学術集会
- エ) 調査研究事業
  - ①トレラン大会の安全基準作成のための調査研究

- ②医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査
- オ) スポークライミング支援事業
  - ①メディカルチェック(JISS)
  - ②傷害予防、応急処置セミナーの開催準備(12/17)
  - ③競技大会における医務業務(医師、アシストの派遣)
- (9) ドーピング防止事業
  - ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など
    - ①ドーピング検査実施(JADAに委託) 6件
    - ②ドーピング防止講習会開催4回で延べ185名選手が参加  
競技ブロック研修会(東北、四国、北海道で延べ148名参加)
    - ③TUE(治療目的使用に関わる除外措置) 申請支援
    - ④ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム) 登録選手への管理支援
- (10) 山岳環境保全事業
  - ア) 研修及び研究会
    - ①第41回自然保護委員総会  
9/9(土)～10(日) 石川県白山市、全国69名、石川28名参加
    - ②常任委員研修会  
6/17(土)～18(日) 箱根外輪山東域、32名参加
    - ③第7回自然保護指導員研修会の開催  
11/11(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター
  - イ) 自然保護の啓発
    - ①自然保護指導員制度の推進
      - ・自然保護指導員腕章からワッペンへの移行実施
    - ②全国環境月間(6月)の実施
    - ③環境省・自然公園指導員制度への協力
    - ④山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
    - ⑤JOC委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力
- (11) 広報等
  - ア) 『登山月報』毎月15日定期発行  
第577号(4月号)～第588号(3月号)
  - イ) HPの更新作成(<http://www.jma-sangaku.or.jp>)
  - ①英文コーナーの新設準備
- (12) 総務及びガバナンス委員会
  - ア) 平成29年度役員・会員・賛助会員名簿の作成
  - イ) 諸規程の整備
  - ウ) 山岳遭難・捜索保険のPR(山岳雑誌広告ほか)
  - エ) NF及び事務局体制の充実強化のための方策検討
  - オ) 選手登録の団体登録制度の検討

香港で登山三昧、香港の山旅・人気No.1コース

## 香港の名峰3座登頂 5日間

発着地 東京・大阪・名古屋 旅行代金 236,000円

出発日 10/17(水)・11/7(水)・12/5(水)・1/23(水)

※燃油サーチャージ(2018年6月20日現在：目安約4,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコド保証会員

 アルパイン ツアー サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com <http://www.alpine-tour.com>

日 時 平成30年7月12日(木)  
18時～21時

場 所 岸記念体育会館・4階特別会議室

出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、平山各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、相良、村岡、合田、仙石、蛭田、町田各常務理事、中島、古屋監事、17名中16名出席、(同席者)西原国体委員長、(欠席者)小日向常務理事

## 1. 議 事

- (1)平成30年度5月常務理事会・議事録の承認について(事前送付済)
- (2)定時総会議事録の承認について
- (3)第2回理事会議事録の承認について  
上記議事録は、異議なく承認された。
- (4)各種規程類の改定について
- ①国体山岳競技規則関連及びJSPPOからの「競技会実施規模等の見直し調査」について西原国体委員長から説明があった。国体山岳競技に関する諸規程・規則等の見直しについてはガバナンス委員会と検討して、後日提案することで了承。
- ④組織管理運営規程について 一部訂正の上、理事会に諮ることで承認。
- ⑤スポーツライミング競技会公認規程について 提案とおり理事会に諮ることが承認された。
- (5)専門部常任委員承認について 一部加筆訂正で承認された。
- (6)臨時理事会開催について 9/8(土)の開催が、承認された。
- (7)海外登山交流参加者派遣の承認について キルギスマウンテンスピリット(波多腰耕弥)、AAC国際クライマーズミート(石川貴大)の派遣が、承認された。
- (8)世界選手権派遣選考基準及び役員・選手派遣について 選考基準の発表について事情説明があり、承認された。
- (9)第18回アジアゲームズ役員・選手派遣について 減選手、減種目の変更について承認された。
- (10)無雪期レスキュー講習会開催要項について 異議なく承認された。
- (11)雪崩災害防止功労者の推薦について 該当者がいれば事務局に推薦してもらうことになった。

## 2. 報告事項

- (1)6月度月次報告について
- (2)八王子ボルダリングワールドカップ結果について
- (3)コンバインドジャパンカップ結果について
- (4)アジア選手権案について
- (5)世界選手権スケジュールについて
- (6)IFSC大会評価基準について
- (7)スポーツ・インテグリティの確保について
- (8)内閣府29年度報告書申請について、定款変更届について
- (9)インターハイ技術顧問として蛭田伸一指導委員長の派遣について
- (10)登山部からの報告
- (11)東京五輪競技壁の後利用について

## 3. 指導員・審判員 検定結果報告

- ①山岳指導員専門科目修了認定者  
長野県山岳協会：認定申請者3名(寺田愛、櫻田こずえ、柗津唯)
- ②山岳上級指導員専門科目修了認定者  
指導委員会(中央開催)：認定申請者5名(宮下直人(茨城)、中島隆之(岩手)、田所一志(岩手)、田口浩昭(埼玉)、高野慎一郎(静岡)  
上記提案について異議なく承認された。

## 4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)第12回生駒チャレンジ登山大会後援について 異議なく承認された。

## 5. 専門委員会動静

- 5～7月(5月17日～7月6日)
- (1)国際委員会  
6月12日(火) 出席12名、委任1名  
ア) 報告事項  
・AACクライマーズミート 日本語案内を作って6/14告知  
・栃木県岳連70周年ロブジェ・イースト遠征での事故について  
イ) 協議事項  
①平成30年度総会/第57回海登研について(6/23、24 栃木県青年会館コンセール・小ホール)  
②大宮さんお別れの会について  
③国内外に向けてのHP案について  
④海外登山懇談会について(11/15(木)19:00～オリセン80人部屋)
  - (2)選手強化委員会  
5月29日(火) 出席6名  
ア) 協 議  
①2018年度ユース日本代表選手の内でんについて  
②アジアユースの派遣について  
③世界選手権インスブルック大会 選考基準について  
③HPS(ハイパフォーマンスサポート)の現状と取り組みと活用について  
④第3期オリンピック強化選手について  
⑤今後のスケジュールについて  
イ) 報 告  
①大会・合宿報告  
②2018年IFSCルールによる混乱(BWC第1戦、第2戦)  
ウ) その他  
①コンディショニングソフトの導入開始について  
②大会視察の報告書のお願い
  - (3)選手強化委員会  
6月28日(木) 出席7名  
ア) 協 議  
①世界選手権インスブルック大会 選考基準について  
②HPS(ハイパフォーマンスサポート)の現状と取り組みと活用について  
③スピード強化について  
④第3期オリンピック強化選手について  
⑤アジア選手権倉吉大会の選考基準について  
⑥アジアユース選手権(中国)の選考基準について  
⑦今後のスケジュールについて  
イ) 報 告  
①大会・合宿報告  
②大会視察の報告書のお願い  
ウ) その他  
①強化委員会の旅費などの支給について

## (4)SC医科学委員会

- 5月25日(金) 出席6名、欠席3名  
ア) 競技会医務担当割り当てについて  
①JOCジュニアオリンピックカップ  
②アジア選手権大会  
イ) 組織管理運営規程の一部改定について  
ウ) 選手BMI管理について  
エ) 2020年オリンピック関連について  
①オリンピック競技大会国内競技団体医事担当者会議  
オ) その他  
①救護業務日誌の提出先について  
②救護記録の項目追加について  
③救急車依頼手順について

## (5)指導委員会

- 6月4日(月) 出席10名 委任3名  
ア) 報告事項  
①全国指導委員長会議報告  
イ) 検討事項  
①SCコーチ及び上級コーチ養成講習会の開催について  
②新指導者制度について

## (6)指導委員会-2

- 7月2日(月) 出席10名 委任1名  
ア) 報告事項  
①夏山リーダー資格について  
イ) 検討事項  
①山岳指導員申請(長野県山協)  
寺田愛、櫻田こずえ、柗津唯、以上3名が認定された。  
②指導委員会主催山岳上級指導員認定5名が認定された 宮下直人(茨木)、中島隆之(岩手)、田所一志(岩手)、田口浩昭(埼玉)、高野慎一郎(静岡)、以上5名認定。折原将斗(埼玉)は、論文提出なしのため保留、田口浩昭(埼玉)は、山行歴を確認の事  
③2018年度のSCコーチおよび上級コーチ養成講習会の開催について  
④夏山リーダーについて  
⑤新指導者制度について  
⑥その他  
・関西方面で主任検定員養成講習会が必要、開催実施に向け検討が必要

## (7)山岳スキー委員会

- 6月25日(月) ネット会議 出席者9名、委任1名  
ア) 報告事項  
・ISMFC総会(6/15～16、ポーランド)報告(松澤)  
イ) 協議事項  
①今後の山岳スキー競技について  
②来年の大会について  
ウ) その他

## (8)遭対委員会

- 5月19、20日 埼玉県上尾市総合スポーツセンター 出席常任10名専門10名  
ア) 遭難対策委員会について  
イ) 夏山リーダーについて  
ウ) レスキュー講習会について  
①無雪期レスキュー講習  
8月31～9月2日 富山・登山研修所  
②積雪期レスキュー講習  
1月25～27日 群馬・土合山の家  
エ) 全国遭難対策委員長会議兼日山協遭対委員会総会 6月23、24日(土日)、東京晴海・海員会館 会費:13,000円/1人、日帰りは千円



オ) 今後の遭対活動について

カ) その他

7月8日山梨岳連にて「山岳遭難シンポジウム」を開催予定。

(9) 遭対委員会 - 2

全国遭難対策委員長会議・研修会報告  
6月23日(土)～24日(日) 45名参加  
23日(土): 「ココヘリの現状と捜索実績」,  
「夏山リーダーについて」説明と討議、  
「雪崩事故後の高体連登山活動と今後について」  
研究討議「高体連と岳連との今後の繋がり方」,  
討議内容発表  
24日(日): 29年度報告、30年度計画、会計報告ほか、  
U I A A 報告、第15回山岳事故調査報告

(10) 遭対委員会 - 3

6月23日(土)～24日(日) 東京晴海 海員会館 出席20名

ア) 全国遭難対策委員長会議について

イ) 夏山リーダーについて

ウ) 無雪期レスキュー講習会について

エ) S A R 東京支部活動

オ) A v S A R について

カ) J A N レベル1講習会について

キ) その他

① 共済会購入のアバランチトランシーバー使用方法について  
レクチャーの依頼あり

② 共済会活動について

(11) マーケティング委員会

7月9日(月) 出席3名

ア) 報告事項

① メディアコミュニケーション関連について

② マーケティング関連について

イ) 協議事項

① メディアコミュニケーション関連について

② マーケティング関連について

6. その他の重要事項

5月19日～7月11日

(1) ボルダリング日本ユース選手権 5月19日(土)～20日(日) 於: 鳥取県倉吉市 平山副会長、村岡常務理事、安井強化委員長

(2) 遭難対策常任委員研修会 5月19日(土)～20日(日) 於: 埼玉県・上尾市スポーツ総合センター 町田常務理事

(3) アジア山岳連盟理事会 5月21日(月)～25日(金) 於: カザフスタン・アルマトイ 八木原会長、小野寺常務理事

(4) J O C 総務本部第1回本部会 5月22日(火) 於: N T C 尾形専務理事

(5) 日本スポーツ協会競技団体評議員連合会幹事会 5月24日(木) 於: 岸記念体育会館1F 尾形専務理事

(6) I F S C マルコ会長との打合せ 5月24日(木) 於: 岸記念体育会館 尾形専務理事、村岡・合田・小日向常務理事

(7) 新旧駐ネパール大使歓送迎会 5月25日18時30分～20時30分 於: ニューオータニイン 八木原会長、尾形専務理事

(8) 平成30年度第1回理事会 5月26日(土) 於: T K P 渋谷カンファレンスセンター8B会議室 理事・監事全員

(9) J A C 前副会長 大久保春美さんお別れの会 5月27日(日) 於: ベルセゾン志木 八木原会長

(10) 都岳連総会・懇親会 5月29日(火) 於: オリンピック青少年センター 八木原会長

(11) 川井靖元「山からのメッセージ」写真展 5月30日(水) 於: 新宿三井クラブ 八木原会長

(12) 全国山の日協議会理事会・評議員会

5月31日(木) 於: 弘済会 八木原会長、尾形専務理事

(13) B W C 2018キックオフ記者会見 6月1日(金) 於: エスフォルトアリーナ八王子 尾形専務理事

(14) ボルダリングWC八王子 6月2日(土)～3日(日) 於: エスフォルトアリーナ八王子 平山副会長、尾形専務理事、村岡・合田・小日向常務理事他

(15) 第5回日本学生スポーツクライミング対抗選手権大会(第73回福井国体リハーサル大会) 6月2日(土)～3日(日) 於: 福井県池田町 八木原会長、西原国体委員長他

(16) J O C 表彰式 6月8日(金) 於: 東京国際フォーラム 八木原会長

(17) 安全登山講師研修会 6月9日(土) 於: 国立登山研修所 尾形専務理事、仙石常務理事

(18) 平成30年度定時総会 6月10日(日)10時30分～15時 於: 渋谷フォーラムエイト 八木原会長他

(19) 平成30年度第2回理事会 6月10日(日) 於: 渋谷フォーラムエイト 理事・監事全員

(20) 高等学校登山指導者用テキスト等編集委員会 6月12日(火) 於: J S C 会議室 尾形専務理事

(21) 日本スポーツ協会競技団体評議員連合会総会 6月14日(木) 於: 岸記念体育会館 尾形専務理事

(22) I S M F 総会 6月15日(金)～16日(土) 於: ポーランド・ザコパネ 松澤委員

(23) 第57回全日本登山大会 6月16日(土)～18日(月) 於: 京都市、亀岡市 八木原会長、伊藤・平山副会長、尾形専務理事、小野寺・仙石常務理事

(24) T O C O 国内競技団体連絡協議会 6月19日(火) 於: 虎ノ門ヒルズ 尾形専務理事

(25) (一財) 日本スポーツマンクラブ定期総会 6月20日(水) 於: 岸記念体育会館1F 日本スポーツマンクラブ 八木原会長

(26) スポーツ安全協会評議員会 6月21日(木) 於: 霞が関ビル35F 東海大校友館 尾形専務理事

(27) 日本スポーツ協会評議員会 6月22日(金) 於: 品川プリンスホテル 尾形専務理事

(28) 岡崎助一氏叙勲祝賀会 6月22日(金) 於: 品川プリンスホテル 尾形専務理事

(29) 国際委員総会兼第57回海外登山技術研究会 6月23日(土)～24日(日) 於: 栃木県青年会館コンセーレ 尾形専務理事、澤田委員長

(30) 全国遭難対策委員長会議兼遭対常任委員総会 6月23日(土)～24日(日) 於: 海員会館 亀山副会長、町田常務理事

(31) 第1回コンバインドジャパンカップ 6月23日(土)～24日(日) 於: 盛岡市 八木原会長、高橋・平山副会長、村岡・小日向常務理事

(32) J O C 平成30年度定時評議員会 6月26日(火) 於: N T C 八木原会長

(33) 日本ワールドゲームズ協会総会 6月27日(水) 於: 日本財団ビル2F 大会議室 尾形常務理事

(34) 高等学校指導者夏山講習会 6月29日(金)～7月1日(日) 於: 国立登山研修所 仙石常務理事

(35) 富山県山岳連盟創立70周年記念祝賀会 7月8日(日) 於: ボルファートとやま 八木原会長

寄贈図書

寄贈本	大町山岳博物館	市立大町山岳博物館 研究紀要
	(株)山と溪谷社	山 大島亮吉紀行集
	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	栃木県の山
	(株)山と溪谷社	琴乃木山荘の不思議事件簿
	(株)山と溪谷社	萩原編集長の山塾
	(株)山と溪谷社	「ROCK & SNOW」summer 2018.6
	Club alpino italiano	「Montagne360」2018.6
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.999 No.1000
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.853 No.854
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC NEWS」第559号 第560号
雑誌	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」6月No.482 7月No.483
	(株)モンベル	OUTWARD 2018 SUMMER No.79
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第612号 第613号
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol.280
	八王子山の会	山となかま No.130 2018
	(公社)日本武術太極拳連盟	武術太極拳 No.345
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.521 No.522
	長野県山岳協会	「やまなみ」
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第428号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第177号
会報	ベルニナ山岳会	ベルニナ69・70「創立70周年記念号」
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.95 No.1060 No.1061
	日本山岳写真協会ニュース	日本山岳写真協会ニュース 第453号 第454号
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.485
	G山想	2018年通巻第11号
	(公社)日本山岳会	「山」6月No.877
	おいらく山岳会	山行手帖 60周年記念号
	諏訪地区山岳遭難対策協会	「八ヶ岳を守って60年」(62周年記念誌)
	中華民国山岳協会	「Republic of China ALPINE JOURNAL 265」
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ 事前へ」8・9月号
日本山岳文化学会	「山岳文化」第19号	
Corean Alpine Club	「山」Vol.256	
大阪府立体育館	季刊「府立体育館」No.125	
明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.187	
FEEC	「VERTEX」No.278	
富山県山岳連盟	「太刀の嶺高く」(創立70周年記念誌)	
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第337	
HAT-J	「HAT-J News」No.110	
全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」Vol.135	
(一社)大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.217	

- (36)山梨県山岳連盟創立70周年記念事業「山岳遭難対策シンポジウム」 7月8日(日) 於:山梨県立文学館 尾形専務理事
- (37)山岳4団体懇談会 7月10日(火) 於:新宿中村屋 神崎顧問、八木原会長、平山副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事
- (38)全国山岳遭難対策協議会 7月11日(水) 於:文科省3階講堂 八木原会長、尾形専務理事、町田常務理事
- (39)葛飾区長表敬 7月12日(木) 於:葛飾区役所 平山副会長、尾形専務理事、村岡常務理事

**【お詫びと訂正】**

本誌7月号(No.592)4頁左8行目の「土肥正勝隊長の法政大学隊」は、「土居正勝隊長の法政大学(HMC)隊」、4頁右11行目の「クラムダウン」は「クライムダウン」の誤りでした。お詫びして訂正します。

**表紙のことば**

猛暑の夏を少し涼しくしようとスフィンクス(6,824m)の写真で表紙を飾ってみました。スフィンクスは、ピラミッド・ピークの東1.5kmに位置し、その前衛峰を成す。山名はまさしくピラミッドの守護神、ギリシャ神話の頭は女神でライオンの体をした翼のある怪物、スフィンクスからきており、1936年の英国隊が命名。その後、1983年8月、ネパール政府はパティバラ・プルバと改名。「プルバ」はネパール語で「東」の意味。同時に高度も6,837mとした。初登頂は1936年6月8日にピラミッド・ピークを目指した英国隊によって成された。

(写真撮影者・尾形好雄)

**編集後記**

関東では早い梅雨明け、西日本では過去に例のない程の集中豪雨で甚大な被害、その後の記録的な猛暑、目を覆いたくなるような惨状がTV等で毎日報道されている。映像は一目見れば状況が把握でき、言葉や写真とは情報量が数段違う。世間あまり認知されていない日山協を宣伝していくには、もっと映像の力を取り入れていかなければと思う。被災された地域・方々には心よりお見舞い申し上げます。

(広報担当 水島彰治)

**一般財団法人 日本トレイルランニング協会**

〒252-0184  
神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
☎042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

**NPO法人 北丹沢山岳センター**  
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

**登山月報 第593号**

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 平成30年8月15日  
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
岸記念体育会館内  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-3481-2396  
FAX 03-3481-2395

# 山岳雑誌 岳人

がくじん  
山と人、時代をつなぐ「岳人」



2018  
9  
September  
No.855

世界遺産の山旅

■加藤 福白出  
■紀伊半島 大室奥街道  
■比叡山 千日御所の道  
■屋久島 宮之浦島 ほか

**【特集】世界遺産の山旅**

★モンベルのウェブサイト  
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

**9月号 発売中**

**年間購読がおすすりめです。**

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊

~~9,780円~~ (+税)

年間購読なら12冊

**8,965円** (+税)

1年間で815円  
1冊分無料!

**年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!**

岳人  
ミニワレット  
(2個セット)



サイズ:9×10cm  
※カラーはお選びいただけません

さらに

はじめて  
お申し込みの方に



岳人ピンバッジ

ご継続の方に



特製  
マガジンBOX



あなたを守る。  
あしたを作る。  
三井住友海上

損害保険と聞いて、  
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう  
三井住友海上  
時空保険  
探査部  
Space-time Insurance  
Exploration Department

人類にとっての  
損害保険の  
必要性を調査。

時空を超える  
ゲート。

社員証を  
かざせば  
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上





# あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

**日山協 山岳共済会** 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
公益社団法人 日本山岳・スポーツライミング協会  
携帯サイト ([www.jma-sangaku.or.jp/mobile/](http://www.jma-sangaku.or.jp/mobile/))



WEBからもお申込みいただけます ([www.sangakukyousai.com](http://www.sangakukyousai.com))